

## V234b Solar-C (EUVST) 海外機関担当コンポーネントの検討状況

永田伸一(京都大学)、川手朋子(核融合研)、清水敏文(ISAS/JAXA)、今田晋亮(名大)、Vincenzo Andretta (Osservatorio Astronomico di Capodimontem)、Giampiero Naletto (University of Padova)、Luca Poletto(CNR-Istituto di Fotonica e Nanotecnologie)、Frederic Auchere(CNRS/Universite Paris-Sud)、Sarah Matthews, David Long, William Thomas, Hamish Reid (UCL-Mullard Space Science Laboratory)、Clarence M. Korendyke, Harry Warren (Naval Research Laboratory)、Clarence M. Korendyke, Harry Warren (NRL)、Bart De Pontieu, Paul Boerner (LMSAL)、ほか Solar-C (EUVST) プリプロ準備チーム

Solar-C (EUVST) は、これまでにない高空間分解能 (0.4 秒角)、高スループットで極端紫外線・真空紫外線の分光計測を行い、太陽の彩層上部から高温コロナまでの幅広い温度帯域をくまなく観測することを目的とした装置である。結像光学系は、EUV 域で高反射率をもつコーティングを施した軸外し放物面主鏡と分光器部の凹面回折格子からなり、分光観測用検出器と Slit Jaw Imager を搭載する。また、主鏡アセンブリは焦点調節機構と、像安定化・スリットスキャン機構を持つ。像安定化・スリットスキャン機構は、EUVST に同架するガイド望遠鏡が提供する信号により制御される。この装置の実現のため、検討・開発は日米欧の国際協力により進められている。本講演では、海外機関担当機器のうちで、分光器を構成する、(1) スリットアセンブリ、(2) 回折格子、(3) 極端紫外線・真空紫外線用カメラ、および (4) Slit Jaw Imager、さらに (5) ガイド望遠鏡について検討進捗状況を報告する。このうち、ガイド望遠鏡に関しては、像安定化・スリットスキャン機構と結合しての、制御系としての検討を中心に報告する。